



市場のここに注目!!

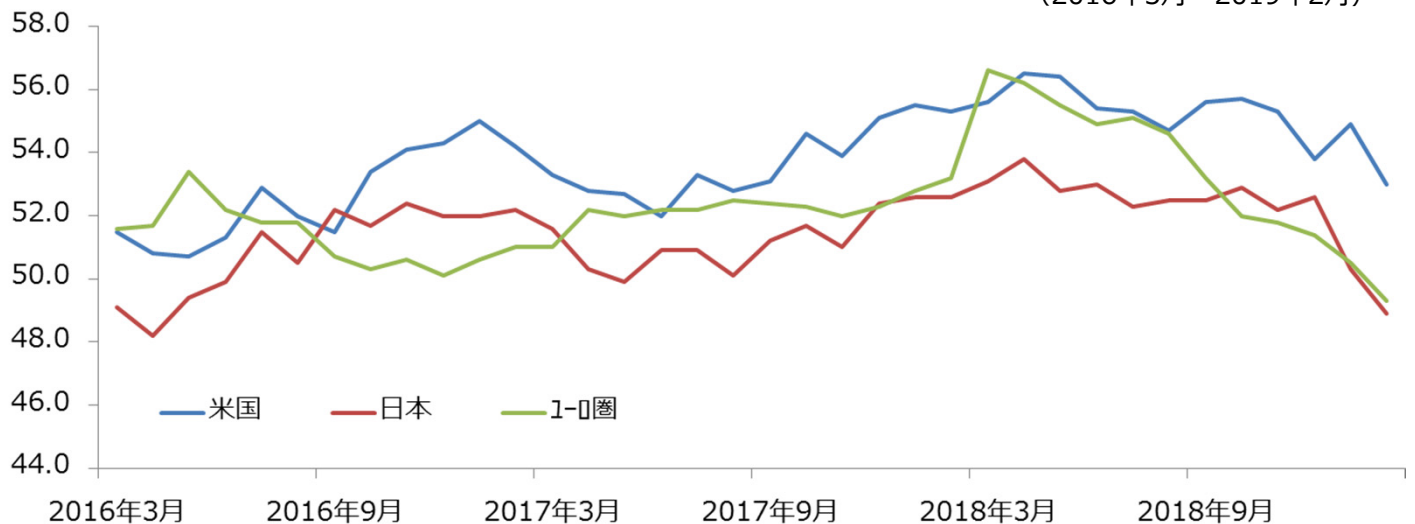
正念場を迎える今年の世界経済と株式市場

はじめに

3月7日、欧州中央銀行(以下、ECB)はユーロ圏の経済見通しを下方修正するとともに、政策金利を引き上げる時期を先送りしました。これを受けて世界の株式市場は下落しています。株価の下落要因は欧州の金融政策だけではなく、世界経済への不安が大きいと考えていますが、今回はECBの決定と今後の世界経済と株式市場の見通しについて考えてみます。

主要国のマークイット企業景況感指数(製造業)

(2016年3月~2019年2月)



Bloombergをもとに大和住銀投信投資顧問作成

減速する世界経済

ユーロ圏のみならず世界的に景気が減速しているのは確かです。各国の景気の状態を示すマークイットの企業景況感指数(製造業)は、昨年秋頃から各国とも低下を続けています。

条件付きの景気減速

ただ注意しなければならないのは、この景気減速は条件付きということです。例えば米中摩擦による不透明感が原因で設備投資を進められないという企業は多いと思われそうですが、もし現在の米中の通商交渉が決着すれば、少なくともそうした設備投資の一部は動き出すと思われそうです。Brexitについても同様です。ここに来て再度の国民投票が行われる可能性も少し出て来ているようですが、もしそうなれば、欧州の景況感は大きく改善すると思われそうです。

(次ページに続きます)



(前ページからの続きです)

2016年に似る現在の世界経済

今回の景気局面は、2016年の世界経済に似ていると考えています。この年には「チャイナ・ショック」やBrexitがあり、一時は世界的な危機を予想する声もありましたが、そうした懸念は杞憂に終わりました。今回も同様の結果になる可能性があると考えています。

正念場を迎える今年の世界経済と株式市場

ここからの数か月は世界経済や株式市場にとって、正念場になると考えています。

門司総一郎（経済調査部 シニア・エコノミスト） 略歴

東京大学法学部卒業
1985年大和証券入社
1987年大和投資顧問(現、大和住銀投信投資顧問)転籍
雑誌、新聞の執筆、テレビ出演も多数あり、わかりやすい説明に定評がある

趣味：一宮の御朱印集め

座右の銘：見えている悪材料は悪材料に非ず 見えている好材料は好材料に非ず

つぶやき：最近オーウェルの「1984」を読んでいます。現在の世の中と似ていると感じます。